



ん中に「サモア」と書いてある小さな島を見つけることが出来る。実は、今回の出張は「アメリカ領サモア」ではない。地図で見られる島はサモア(旧称西サモア)であって、アメリカ領サモアはそて、アメリカ領サモアはあって、アメリカ領サモアはある。アメリカ領サモアの東にある更に小さな島なのである。アメリカ領サモアは 通 地図には名前だけ 0)

フィジとタヒチの間に

ある 間。

イとニュー

モ る

ア

るのかって?ハワモアってどこにあ -ジーランドのBのかって?ハ

て、出張に行くこととなっしい。こんな場所に縁あっさすぎて確認することは難書いてあって、その島は小

けでもなく、飛行機の便はりでもなく、飛行機の便はいる方人ほどの島に出張者のおるアピア経由となる。人がゴパゴへ入るには、ホノパゴパゴへ入るには、ホノ アメリカ領サモアの空港、

週二回しかない。つまり、滞在日数は四日間となり、存回の出張のように土日が名を表すこととなる。出張てあますこととなる。出張と、土日は皆休みであるたと、土日は皆休みであるため、ビーチでのんびりするめ、ビーチでのんびりするか、ゴルフ(なんとゴルフ) という。え?私の場合?やっ場がある!)をするしかない







右 : 青いサモアの海はさんご礁によるもの。ウミガメやサメ 等がカラフルな熱帯魚たちと泳いでいる。 左上:さすがアメリカ、こんな場所までマクドナルドが。 道を挟んで、KFCとピザハットも・・・ 左中:島には舗装された道路。信号は無し。 左下:海岸には難破船も。他にも何隻かあるらしい。



む。 ていて、 装されていて、ホテルもアメ ナルドは注文してから材料を 潔なホテルであった。 リカ本土に負けない立派な清 しっかりとアスファルトで舗 中から断崖絶壁の山々が見え その歴史を語るように、 り上がって出来た島であり、 じように海底火山が海上に盛 シーで移動。 についてからホテルヘタク たのは木曜 ンタッキーもある。現地の人 クドナルドやピザハット、 自治領とはいえアメリカ。 がいるかもと期待に胸が膨ら いジャングルが覆いかぶさっ 信号こそ無いが、 山の表面を思ったより深 ウトゥイラ島に到着し くつか メリカ 理するので、 ひょっとして結構蝶 日。パゴパゴ空港 ハワイ諸島と同 ここのマクド **か** で最も大きい 領サモアはい 島 があ さすが 道路は 車の

で、 時間 る。 配してしまった。 らサモア人に与える影響を心 これらファーストフードが彼 定期的に廃棄する事も無い したフライドポテトなどを いる店舗の一つだと自慢す 私はそんなことよりも、 アメリカで最も儲かって また、それ故に作り置き がかかるとのことであ が出てくるの に か な  $\dot{o}$ 

焦ることは無い。二日目の朝、この後二日も時間があるので初日二日はお仕事に専念。

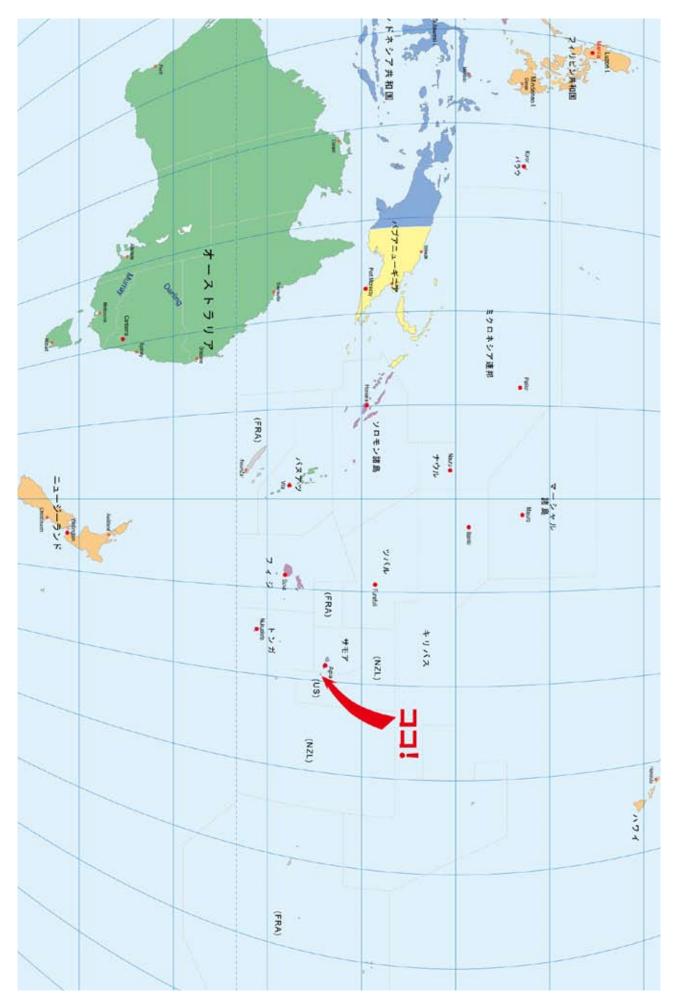
じ状態で新しいサイカブトが うか?この後三日間 べる甲虫類はいないのであろ ムシのような昆虫の死骸を食 らない。コオロギが一匹、 中々立派なサイカブトなのだ がら車に踏み潰されている。 ひょっとしてこの島にはゴミ イカブトの残骸にきていた。 テルを出ると入口のところ 潰れていては標本にな センチほどのサイカブ 匹落ちていた。 きれいな個体を 残念な 毎朝同 サ

手に入れようと夜の灯火採集も試みてみたが、風が強く、コオロギしか見ることは出来なかった。それでも朝になるなかった。それでも朝になるとホテルの前につぶれたサイとホテルの前につぶれたまるとのがもしれない。

ターもあることが分かった。と、国立公園もビジターセンた。ホテルのスタッフに聞くの状況を把握することにしカーを借りて、まずは島全体カーを借り、ホテルでレンタ



ジンガサハムシの仲間。この輝きは標本にして暫くしか保てなかった。





も人がいなく、とりあえず地も混じっている。部屋には誰 蝶がいそうな場所を地図で探 あったので、これをもらい、 他には夕方「サア」と呼ばれ く同じことになるであろう。 必要がある。蝶採集もおそら ケースの中には貝殻の標本が 中にあるビジターセンターに にある家の人の許可をもらう 住民の私有地となっているこ 説明と注意事項について書い にはサモアの風習についての すことにした。パンフレット 図つきパンフレットが置いて 入っていて、中々綺麗なもの 示されていた。壁際のガラス 文化に関する資料などが展 入ると、小さな部屋にサモア る祈りの時間があり、この時 この島のほとんどの場所が てあった。最初の注意点は、 海で泳ぎたければ、そこ パゴの街中のビルのターへ向かう。パゴ



はならない事などがある。 まずは空港のすぐそばにあるホテルから西側の地域をうろついてみる。東西に延 をうろついてみる。東西に延 でる道路をひたすら走る。と いっても道は曲がりくねった 連30~40キロほどしか出せない。のんびりと周りの景色を 見ながら車を走らせる。こん なスピードを出せない場所な のに、なぜかスポーツカーも する蝶を何頭か目撃した。一 つは間違いなくオオカバマ ダラ。もう一つはルリマダラ (Euploea) の仲間。そして最 後はおそらくムラサキタテハ (Hypolimnas) の仲間であろ う。車の多い(小さい島なの に!)道の真ん中で車を止め るわけにも行かず、とにかく るわけにも行かず、とにかく るわけにも行かず、とにかく るわけにも行かず、とにかく

でその場でじっとしてなけれ村にいた場合はサァが終るま

外標識はほとんど無いので、外標識はほとんど無いので、と自分で判断するしかない。一時間くらいすると、西端らしき場所に到着した。小さな川が海に流れ込んでおり、植川が海に流れ込んでおり、植川が海に流れいででおり、植家も無いので私有地というわた渓谷のようになっている。「ルリウラナミシジミの仲間かない・・・。シロチョが届かない・・・。シロチョが届かない・・・。シロチョが届かない・・・。シロチョが届かない・・・。シロチョが届かない・・・。シロチョが届かない・・・。シロチョがが無かない・・・。シロチョがが無かない・・・。シロチョががまかない・・・。シロチョががまかない・・・。シロチョががまることにしなが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてがが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無かったので、あきらめてが無が、多いにはいる。



名も無き道を ひたすら走る・・・

12

が、いつまで行っても周りは車で登っていく事が出来た。ようやく目的の道を見つけ、Uターンを何回か繰り返す。 向かっているようで、山の上地図で見るとこの道は山頂にに向かっている道である。次の目的地は島の西部中心 かを捕らえたようだ。撮影し地面に向かって急降下して何のような鳥を見る。電線から 完全にハズレ。途中体が白く も家だらけであった。ここは き場所まで到達したが、ここ 家ばかり。とうとう頂上らし 続く道となるので、入っては ある。道を間違えると民家へ ろで道を曲がるしかないので まった。道路標識が無いので、 かもしれないと考えた。 ならそこに集まる蝶が採 を探すのに時間がかかってし 「この辺かな?」というとこ しばらくこの山頂へ続く道 羽が青色に輝くカワセミ







いい景色。道の側には花が咲た。パゴパゴ湾が望めて中々 家も見られ に道 いるかもしれない。 いていて蜂が群がっている。 きったところで車を止めてみ ワクしてくる。道が峠を登り **「これはいいかも!」とワク** ヤングルっぽい パゴパゴ湾が望めて中々 かすると蝶が吸蜜に来て なんと蜂だと思った 急な上り坂となり、 なくなってきた。 雰囲気で 近づいて

てすぐ る昆虫はほとんど食べられてがいて、これでは花や葉にいらく花に集まる昆虫を食べらくを動き回っている。おそ や葉を動き回っている。おそチュア版のようなトカゲが枝 であ を撮 まうであろう。しばらく見 虫 概るのに Ó たが、この蛾以外に昆 は 蛾 日本のトカゲのミニ 一苦労。 ・ドガ 0) しっぽの で写真





## 写真解説

左上:蜂と間違えた蛾の仲間。飛び方は蜂のようだ。

左中:トゥトゥイラ島唯一の国立公園。

熱帯雨林の中にハイキングコースがある。

左下:国立公園入り口にいたムラサキタテハの仲間。 右 :島を走る道路はこんな感じ。そびえ立つのは

「レインメーカー」と呼ばれる山。



今回色々な場所で見かけたルリマダラの仲間(表と裏)。 後に Eulopea lewinii bourkei と判明。



ムラサキタテハの仲間(表と裏)。 後に Hypolimnas antilope lutescens と判明。 飛んでいる時は、上のルリマダラに似ている。

きた。し

間

捕

とま ダラに擬 てしまい、採り逃がしてしまっ では仲 ところがこの Ń と思う。網を振った態していることは間 網の枠が枝に当たっ かない 茶 が、 色い ル

マトラ島の荒地などで見

あまりい

才

た網が届かない。しばら何頭か花に群がっているだ。五メートル位上のほいる値物に集まっている きた。よく見るとムラサキタは少し大きめの個体が降りて捕らえる。さらに待つと今度 よく見ると絶壁に つ一頭が降りてなか届かない。しばか花に群がっていたよ である。 りてきたので マダラら ル  $\langle \cdot \rangle$ め そっくり てようや ららく る。ま 生えて マ があっ るよう リマ L L る。 待ったが、 た国立 たの タテ な?」といまさらのを守るために葉が閉 戻っている。 している。バッタがオジギソ めてハイキングコー 国立公園に続く道に 大分慣れてきて、 に止まっ 翌日、 り口があ 。足元にオジギソウが密生てハイキングコースを歩り口があり、そこに車を止 葉に飛び乗ると、 峠あたりに公園 ホテルに戻っ 「このように自分の これに驚きバ 公園を目指す。 チョウの この日はこれ たまま動かなく 前の日に行きそ 蝶が先ほどの が降りてくる 羽 すんなりと  $\mathcal{O}$ 入り登 たきに 道に なっ

てもう一

て中々きれい くネットイン。

な

0)

が広がる。

ット

ij

止

が数頭飛んでいる。吹がら進む。昨日のルス ちの方が傷が無くてきれいなテハが吸蜜にきていた。こっ 採集は出来ない。仕方なく「撮 蝶がいる雰囲気ではない。 る花にあの茶色いムラサキタ さそうだ。 行く手を阻まれてしまった。 してとうとう大きな水溜りに オレンジ色のシロチョウのよ はいないのではと思ってしま る」ことにする。 これ以上進む価値はあまりな いジャングルが続き、 入り口のところに生え できた。水溜りを避けなしばらく行くと道がぬか これがあるとあまり蝶 つ でもここは国立公園、 頭上を勢いよく飛び んでいる。昨日見た昨日のルリマダラ 仕方なく入り口ま 進めど進めど暗 入った場所なった場所が あまり 所に無 7 そ



上:トゥトゥイラ島の地図(サモア国立公園パンフレットのコピーを若干手直ししたもの)

下:国立公園入り口にあった、植物



サモアオオコウモリらしきコウモリが海から吹く風に乗って滑空する。

## 暮らす動物たち

た。

なぁ・・・」。結局蝶が沢山いたまった。「う~長い竿があったらミがキラキラと高い木の上に止

最後に島の東側を探索することにしてみた。パゴパゴに戻り、今度はひたすら海岸線を東に走る。途中から家も見られなくなり、中々いい感じになってきた。鶏くらいの大きさの黒い鳥が道を横断する。止まって見てみると、すみたいに飛べない鳥かな?車を止めるといきなり羽ばたいて飛んでいってしまった。とても空を飛が・・・。ふと空を見上げると、が・・・。ふと空を見上げると、がってしまった。とても空を飛が・・・。ふと空を見上げると、がってしまった。とても空を飛が・・・。ふと空を見上げると、がったのでいる。尾がツバメみたいになっている。尾がツバメみたいになった。

体だった。ひょっとしてこの茶色

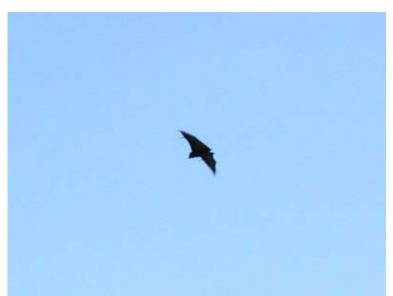
いムラサキタテハはリュウキュウ

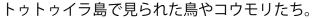
ムラサキのメスなのであろうか?

ぼーっとして見ていると、ウラギ

ンシジミのようなやや大型のシジ









## 太平洋の孤島

風にのって滑空する姿がかっこいからないが、羽ばたきもせず、海回見たコウモリがそれなのかは分

い感じのコウモリだった。 色々な鳥を見ていると、突然黒いアゲハチョウが頭をかすめて飛んでいった。モンキアゲハの仲間の Papilio godeffroyi だ。サモアモンキアゲハと呼ぶべきか。これは以前サモアにいると聞いたことがある種。ちょっとボロボロの個体ある種。ちょっとボロボロの個体ある種。ちょっとボロボロの個体ある種。ちょっとボロボロの個体ある種。ちょっとボロボロの側に消えていってしまった。裏面にに消えていってしまった。

ているが、非常に長くて優雅な感じがする。サモアは意外と鳥好きにはいい場所かもしれない。真昼間だというのにコウモリも見た。関を広げた大きさが一メートルほどもあり、鳥に見える。サモアにどもあり、鳥に見える。サモアにどもあり、鳥に見える。サモアにどもあり、鳥に見える。サモアにで・中でもここの特産種であるサモアオオコウモリは昼間に活動しない、いわゆるコウモリらしいコウモリ。そのほかはオオコウモリの仲間で、顔が狐みたいなやつフルーツなどを食べるという。今

りあ 則。 沢山集まってきていた。シジいて、そこにシジミチョウがなキク科のような花が咲いて 類混じっているようだ。ボロを確認していく。やはり数種 海側に下っている斜面に小さた飛んできた。よく見ると、 く片っ端から捕らえるのが法 ミチョウは飛んでいるときは ウはこれっきりチャンスがな スイロオナガタテハであった シロチョウを思ったのは、 を振るがミス。オレンジ色の ウがそばの葉に止まった。 ボロの個体などは逃がし、 種類を確認しにくく、とにか チョウが飛んできた。捕らえ 今度は茶色いタテハチョ 今回採集することは出 角紙に入れていると、ま 今度は青色に輝くシジミ えず一通り採っている ひたすら網を振り、 ( 結局このタテハチョ か っこい 種類

上がるのであろう。

きっと今夜この話で盛り

た。 をしているのかを聞いてき 途中村人の車が止まって何

娯楽はおしゃべりというこのにふう~ん。頑張ってね」「ふう~ん。頑張ってね」「コレクションに加えるんです」

る。 になってしまった。村の入り が出てきて、道路もジ さらに車で進んでみた。 集したところで、この道 ラが集まっているのが見え いないようだ。 口にある小学校でUターンす ある程度シジミチョウを はガガイモ科のアコン、別ってきていた(後にこの植にオオカバマダラが次々に ある植物にオオカバマダ 日曜日なので誰も学校に ワタのお化けみたいな植 車を止めて見に行くと、 Uターンする ノヤリ 道村 を



オオカバマダラ(表と裏) Danaus plexippus

名クラウンフラワーと判明)。食草に間違いないであろう。葉を丁寧に探していくと、すぐに幼虫を発見できた。さらに探すと卵や他の幼虫も発見。蛹だけは見られなかったが食草から離れて蛹になるのであろうか?2頭採集して帰途につく。途中、新鮮なサモアモンキアゲハが現れたが、網が届くような高さでは違うのであろうか?2頭採集して帰途につく。途中、新鮮なサモアをので、またもや見るだけであろうかで、またもや見るだけでが届くような高さではなかったので、またもや見るだけでがれない時がある。今回は小さい島の割には沢山採れたので、満足すべきであろう。



した。 Ecology(「アメリカ領サモ Reference to Biology and Samoa with Particular ンターネットで検索してみる ていたので、 ショップ博物館より出版され アの鱗翅目とその生態. いうモノグラフがハワイのビ Lepidoptera of American ジョン・コムストック著 同定である。まずはイ 翅をし ているの 早速これを購入 た後、 は採集し 合れ と

少々古い本(一九六六年) 少々古い本(一九六六年) が、まったく手がかりの無 の六月から十月にかけてトゥ の六月から十月にかけてトゥ の六月から十月にかけてトゥ のイラ島で生息が確認され た蝶は表にある十九種類であ る。ここまではよかったのだが、まったく手がかりの無

が難しい。
ていないので、中々絞り込み特徴についてもほとんど触れ真がほとんど無く、また蝶のが、このモノグラフ、蝶の写が、このモノグラフ、蝶の写

宅に帰

つ

7

のは、 サキ。 うに裏面の紋がはっきり antilope)に翅の模様が同じな 著の とほぼ同じなので間違い ほぼ間違いないであろう。 の ぐ、H. antilope lutescens あった。まずはヤエヤマムラ る資料から、 エヤマムラサキ (Hypolimnas 区のすぐ外に生息しているヤ い。意外とここで役に立っ いるであろうから、 アシジミはヤマトシ であろう。 次は Zizina labradus° フランディ氏の本の標本写真 (Butterflies of Australia) | オオカバ てのほかの蝶は手元にあオオカバマダラは問題な これはオーストラリア マイケル・ブランディ尽外とここで役に立った料から、確認するしかな オーストラリアの 同じ仲間 ||のシルビ| ジミのよ これも で 蝶



コムストック氏の Lepidoptera of American Samoa with Particular Reference to Biology and Ecology で唯一ある蝶の絵と写真。同定にはあまり役に立たない?

トをい と考えた。 Nacaduba samoensis であ ストックの写真が間違 argentina であろうとのコメン とうございました。) たのはここまでであっ きらと光るルリウラ samoensis では無く、 コムストック氏 今回 シジミチョウを中心といはここまでであった。 写真 解 ストック氏がシジミチ リウラナミシジミは シジミチョウ類の ただいた。 かっ 集 、が図示されて たの 中で であ 直接Eメ ジを作成さ (T様、 は青色に 非 この つ J. bochus 本 ナミシ に同定に ح 同 あ 1 同 が 氏 ŋ ろう れは 使 に も南 N n i き ヨ

## アメリカ領サモア 蝶のチェックリスト

- 1. オオカバマダラ
- 2. メリッサコモンマダラ\*
- 3. シロモンクロマダラ\*
- 4. コノマチョウ
- 5. ヤエヤマムラサキ
- 6. リュウキュウムラサキ
- 7. トンプソンムラサキ\*
- 8. サイパンタテハモドキ
- 9. ウスイロオナガタテハ\*
- 10. サモアモンキアゲハ\*
- 11. ナミエシロチョウ
- 12. ジャワシロチョウ
- 13. ルリウラナミシジミ
- 14. タヒチオナガウラナミシジミ\*
- 15. オジロシジミ
- 16. サモアルリウラナミシジミ\*
- 17. ウスモンシルビアシジミ\*
- 18. シルビアシジミ
- 19. タイワンアオバセセリ

Danaus plexippus

Tirumala melissa tutuilae

Euploea lewinii bourkei

Melanitis leda solandra

Hypolimnas antilope lutescens

能性から除外できると判

断

Hypolimnas bolina inconstans

*Hypolimnas thompsoni* 

Junonia villida villida

Vagrans egista bowdenia

Papilio godeffroyi

Appias paulina jacquinotii

Beleonois java

Jamides bochus argentina

Catochrysops taitensis taitensis

Euchrysops cnejus samoa

Nacaduba samoensis

Zizina labradus labradus

Zizina otis cheesmanae

Badamia exclamationis

備考:学名は現在の分類に準じており、Comstock, 1966から変更されている。 \*印にある和名は著者が付けた和名。

Normanding D 足引は意味てあるとおりである。シジミチョウはここに紹介したのであろうか。そのほかの

い。受付で「昆虫学部の部屋もっと得られるかもしれなから、サモアの蝶の情報が本を発行した博物館である にお願いする(実は今回で二へ行きたいんですが」と強引い。受付で「昆虫学部の部屋 回目)。 うぞ、」と何千とある標本箱 チョウ科の標本箱を探してい で不在との事であった。 と早く解決すること N. samoensis の疑問 前に案内される。 、ビショップ博物館偶然にもハワイへ行 同じ蝶に間違いなし。 蝶の担当者は夏休 Jamides 属の箱が見つ コムストック氏が紹っ Jamides argentina があ 中を見ると丁度サモ 今回も心よく受けて の担当者は夏休み中標本室へと案内され 。コムストック氏のショップ博物館へ足にもハワイへ行った シ がは 出 来外

した蝶は間違いであったので あろうか?次の箱を見ると今 度は Nacaduba samoensis が出 できた。J. argentina と見た目 はほとんど変わらない。よく 比べてみると、N. samoensis はJ. argentina より一回り大

持ちになったのであった。 模様が現れる事が分かった。 様は J. argentina で間違いな し。更に標本のデータを見 し。更に標本のデータを見 て来たみたいな不思議な気 で来たみたいな不思議な気

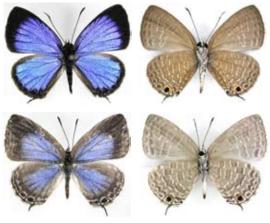


ビショップ博物館貯蔵のウスイロオナガタテハ。左下の個体はコムストック氏採集の個体。おそらく彼の本に掲載された個体。





ビショップ博物館貯蔵のルリウラナミシジミとサモアルリウラナミシジミの標本。写真では分かりにくいが、実物を見ると違いが分かる。右の標本のデータにコムストック氏の名前が見える。



ルリウラナミシジミ Jamides bochus argentina



オジロシジミ Euchrysops cnejus samoa



ウスモンシルビアシジミ Zizina labradus labradus



今回の採集結果。右上にあるのはアブ、ハンミョウ、ジンガサハムシの一種。